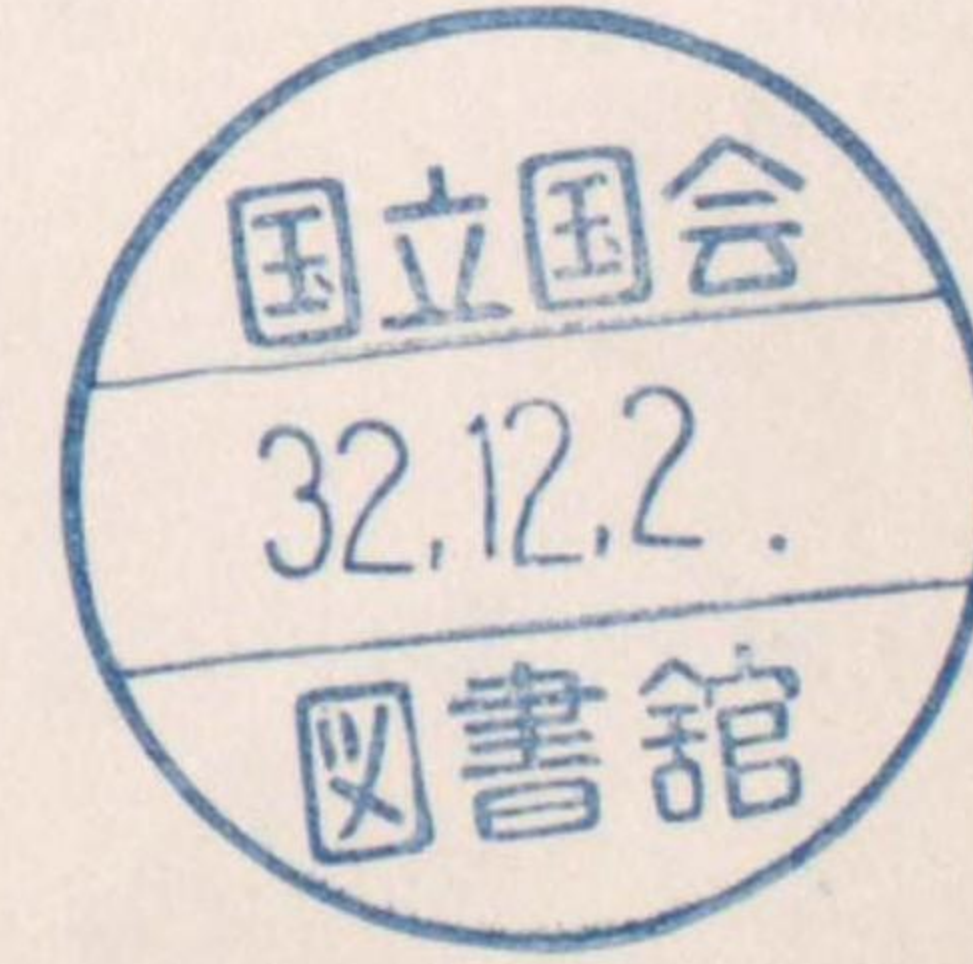


東研資料第9号
昭和32年7月

金融引締後の卸売業の景況と問題点



東京商工会議所



金融引締後の卸売業の景況と向題点

は し が き

東京商工会議所では、去る8月20日、卸売業の最近の景況と向題点を窺うため、砂糖、毛織物、綿スフ、絹人絹、合成繊維、木材、工業薬品、化粧品、電気器具、鉄鋼等各業界における中堅卸売業者を招き、標記の件につき懇談会を実施した。その要旨は次の通りである。

(I) 概 況

(1) 卸売業では各業界ともその地位は戦前に比較し、メーカーと小売商との板挟みに遇って常にシワ寄せを受ける傾向が強いので、今後早急に流通秩序の確立を図る必要がある。

(2) 以上ノ〇業界のうち金融引締の影響が端的にみられる業界は繊維関係業種（毛織物、綿スフ、絹人絹織物）等があげられるが合成繊維は業況は比較的安泰だが流通系列に向題が残されている。（向屋の95%が系列外にある）

しかし、繊維関係業界不振の根本原因は過剰生産にもとづくものと思われている。

(3) 金融絞肉の融資態度は金融引締前の借りて下さいという態度とは全く逆になり、貸出先の厳選化が目立ってきている。

例えば、繊維関係では従来枠外貸出だったものを枠内に入れ、貸出規制傾向がはっきりみられる。

業界全般では金利の1〜2厘引上げ、枠内貸付の実施、手形割引に対する警戒態度等が目立った動きとなっている。

しかし、引締影響が本格化するのは9月という点では、各業界とも一致した見解をとっている。

(4) 向屋の系列化向題

砂糖、合成繊維、電気器具（新旧大手メーカーの系列強化、

販路拡張のため販売競争激化)等では、販売競争激化による一種の取引混乱の懸念がみうけられ、引締強化に伴い今後の成行きが注目される。

(5) 金融引締を決済面からみると売掛金の漸増ならびに受取手形決済期向の長期化が各業界ともみうけられるが、とくに砂糖、繊維関係業種(毛織、綿スフ、絹人絹)、木材、化粧品、電気機械器具等では現金決済の所は回収期向が伸び勝ち、手形の場合は従来より手形期向が長期化し、繊維関係では若干信用不安気味が窺われる。

(6) 次に金融引締の影響が徐々に現われてきた業界の対策は砂糖では流通秩序の確立をめざして取引研究会の設置や、毛織物では大阪で滞貨買上機関の設置(卸組合員が一件当り150万円出資、銀行との投調により卸段階の滞貨を買上げる仕組)、綿スフ、絹人絹では過剰生産の抑制策、販売先の厳選傾向がみうけられる。

合成繊維業界では向屋の95%を占める系列外向屋をどうするか今後の向題として流通秩序改善方を図っている。

一方木材では今のところ金融機関の弾力的な運用で資金繰りは向題がないが今後設備投資の減少、関連産業の不況によるシワ寄せに備えており、化粧品では価格のダンピング防止と、メーカー小売との投調によって向屋マージンの確保(最低一割)に努力するとともに信用貸販売の自肅えと動いている。

さらに電気器具では大メーカーの月賦販売会社設立を注視するとともに新旧大メーカーの販路拡張にもとづく販売系列強化による取引混乱を防止すること、型の変化の頻度と旧型販売によるリスクの回避策を望んでいる。

繊維業界倒産状況

年次	件数	金額	年次	件数	金額
32年1月	38	9.4億円	31年1月	22	8.8億円
2月	38	10.8 "	2月	18	9.9 "
3月	53	39.5 "	3月	15	4.9 "
4月	55	26.5 "	4月	15	2.7 "
5月	60	22.4 "	5月	12	4.0 "
6月	66	23.7 "	6月	21	4.6 "

東京信用交換所調による負債総額1千万円以上の繊維、向屋、メーカー、小売の倒産件数、金額100万円以下四捨五入。

(II) 各業界の動向

(1) 砂糖

砂糖卸業界は他の業種と異なっており、戦前、戦後卸の地位も激変したが最近メーカー小売の向に立って常にシワ寄せを受けている。砂糖業界ではリベート販売を通常とし31年では17のメーカーとの取引で平均1円20匁の値引を受けたが最近では原糖高を理由にリベートは50匁となり、年末には殆んどなくなる見透しが濃厚で、

戦前配給秩序

メーカー — 代理 — 元売 — 卸の秩序が判然としたが最近ではメーカーが地方まで特約店^(特約店)制度をとった結果、卸の利潤は低下をみるに至った。卸の数も戦前の2倍で販売競争は激烈なので取引研究会をつくり流通機構の確立に努力している。

決済事情

仕入は5日~1週向の現金仕入、販売は乾物菓子、飲料水店等に行い、回収は1~2週向、販売は貸しが増大、業者の資金は殆んど銀行依存の状態、現状では引締で困るものはな

し、割引日歩の上げ(1厘~2厘)を要求してくる程度、しかし去年はスエズ動乱から11月20日頃までは一応良かったがその後は1月、2月と低迷し、昨年より悪い状態が続き、昨年繰越原糖42万トンも6月末までで使い果し、その後は高い原糖となり、更に外貨予算の繰延べも手伝ってかなり原糖事情は悪化の見込み、(年向原糖輸入120万トン本年

100~90万トン、そのうち40万トンは5割高の原糖)原糖高は結局、販売単価の値上りを来し勢い数量的には昨年並みの取扱いとしても資金量は1割5分位昨年より増加の見込みでこれが業界の資金圧迫となることは必定。

そこで銀行の融資態度は1件の大企業を融資することは1000件の中小企業を救うことをとくに銘記すべきである。

(2) 毛織物

現況と問題点のうちとくに特徴点をあげれば

(1) 過剰生産が流通秩序に圧迫を加えている。

因に春物で81%増、夏物30%増(対前年比)が示す如く(織屋から整理屋に搬入されたもの)今年の生産は活発を極めたが需要はこれについて行けず、滞貨状況をみると向屋に1.5割、注文既成服(切売段階)2.5~3割、既成服1.5割~2割、メーカー1割~0.5割、その他残余%と各段階にかなり見受けられる。

(2) 金融引締め取引阻害。……取引相手に対する信用不安が増大し、引取の渋滞がみられる。

(3) 輸入金融の引締めからくる取引圧迫

以上のように業界は沈滞し切っているのでこれが打南策として大阪業界では滞貨買上機関の設置が目論まれている。

滞貨買上機関の設置

その仕組は1件当り150万円の資金を出し、5000万円を集め、銀行融資3億円で卸段階の滞貨買上を行う計画。

このことは向屋から、切売段階、既成服業界にも波及され

る形勢にあることは注目される。

今後、原毛割当削減(31年原毛割当80万俵、32年112万俵、4割増)で若干生産もチェックされようか、今年1月以降3割以上の増産をみているので人間的に若干持直しても需給から判断すると見透しは必しも明るくない。

(決済状況)

手形期間の長期化が目立ち、現在でも150日決済がみられる。

要するに生産は過剰で価格は国際的に割高で輸出はできず、卸売段階は大企業と小売商の間に立って29年当時の状況まで追込まれている。

(3) 綿・スフ

根本的に不振な原因は去年の無謀な生産過剰にあるが(日本では800万鍾が適当だが現在90万鍾、生産20万梱が適当だが現在23~24万梱)

生産妥当量 本年生産

綿 5,800万封(1割操短後)

スフ 3,000~3,500万封(5,000万封)

結局過剰生産により業界は売手市場化し相場の変動が激しい中において業界は販売競争下において卸段階は苦境に立っている。しかも業界は殆んど他人資本が全部を占めると言っても過言ではなく、マーゲンもメーカー1割、小売3割に対し、卸は2~3%で極めて少い。

最近所要資金の貸出しを希望しても資金計画書はできず、大部分の業者が貸出枠を1~2割引締められている。

卸は糸を買う場合、金利つき、売る場合、金利なし、印紙税はとられ、小売への販売は従来の内金が手形に変わり、従来金融貸出の枠外にあった保証手形も枠内に入れられる仕末で金詰りは深刻だ。

(4) 絹人絹織物

概況としては生産は春物は昨年の50%であったが、売行きがプリント春物の売行きが昨年の3/4程度で15%~20%の生産過剰となっている。尚決済状況では現金決済が長期化する一方手形決済も長期化、売掛残高の増加が目立っている。

当面夏物需要の動向並に農村の購買力待ちと云ったところを秋、冬物も昨年生産の3割減を示すように、当面過剰生産抑制に業界は努力中。

(5) 合成繊維

ナイロン、ビニロン、塩化ビニロン等を主体とする。当業界は大メーカーに向屋が系列化され、配給機構は整然と整備され(系列外向屋が95%を占めているが)マージンはメーカー65%、卸15%、小売25%の割合を示し、受取手形決済は通常60日と業況は安泰だが今後、印紙税、運賃値上、全費増などかなり問題がでてきている。

(6) 木材

現況、戦前の向屋の地位は今認められないが、現在未だ金融引締の影響は直接には現われていない。

この理由は昨年来の投資ブームに伴い受注増と考えられる。今後の見通しでも7、8月まではよく、秋口需要は多少悲観的金融機関も木場の特殊性を認め抜力的で金利は一厘上げ程度、新規貸出は厳選する程度。

決済状況をみると天龍産地月2回現金、秋田45日、和歌山10日現金決済、南洋材90日決済と云ったところ

(7) 工業薬品

新産業の輩出による加工染料、工業薬品など国内産では品質原価高(石炭のコスト高)が目立ち、どうしても海外もの(西独)の輸入が必要となり、この場合輸入保証金25%、着荷を同時に輸入税25%をとられ結局輸入全額の50%の現金が必要でこれが資金繰りを圧迫する最大なもの、国産染料は頭打ち

輸入染料は増大、工業薬品は世界一流となったが、石炭炭価値上りで世界と角逐することができず問題が残されている。

決済状況は今のところ100日後現金決済が普通だが今後関連産業の不況がくると漸次しわ寄せが考えられる。

(8) 化粧品

東京卸組合員98、従業員50人以上は7割未満にとどまっている。メーカーの商品販売では制度品システム、オーソドックス、小売直接と三方法が行われ、卸はオーソドックスの商品丈を取扱っている。

金融引締の影響は業界の性質上間接的だが、現金掛売の増大がはじめ、手形期向も延び勝ちとなっている。(60日~90日決済)

卸のマージンは約7割だが、メーカー、小売との間に立って苦しい立場を続け、現在大多数の卸向屋が5分程度のマージンが獲得されればよい方である。

当業界の最大の問題は信用貸販売が大半を占めるので間接的な影響が憂慮されている。

(9) 電気機械器具

当業界の需要の伸びは着るしくテレビ100~150%増、ラジオ50~70%増、洗濯機50%増をみてもこの向の事情は了解される。

現況は三菱日立など系列をもち販売ルートを確保している大メーカーと然らざる大メーカーの販売競争が取引末端まで混乱させていることは注目される。

東芝一月賦販売会社設立10~12ヶ月月賦販売を行っている。

しかもかかる月賦販売は卸を通じていなく回収は直接会社がやっている。

生産増加で在庫は割く、この点他業界と相様を異にするが型の変化が頻繁であること、旧型は宣伝力の影響ですぐ売れなく

なり値引の必要に迫られ、とくに商岳の7割が月賦売りなので
資金繰りが向題となる。

とくに小売の資金繰りを面倒みる必要が生ずる。

ただし今のところ大メーカーの卸業者への資金援助が続いて
いるので金融機関依存度は信用枠内にとどまっておきこの点未
だ向題はみられない。

ただ金融状況の変化で月賦販売では入金率が悪化することが
憂慮されている。

(10) 鉄 鋼

◇ 最近の鉄鋼価格----変動が着るしい。例えば

31年中でも	7月	} 6.5万円へ2.5万円
	8月	
	10月	11.5万円

したものが現在(32年6月)5万円余となっている有様。し
かも二次製品として輸出はされるが鉄鋼だけでは最近全然輸
出されていない。

◇ 決済状況

卸売業 同業者間 月末現金決済

他----- 手形決済

メーカーに対する支払----90日手形又は現金でその都度
メーカーとの談合による。

◇ 融資状況

銀行関係は別に引締めの影響はそれ程出ていない。枠の範
囲内では借りられる。(現在の倒産は引締の結果ではない)

◇ 参考 鉄鋼価格(普通鋼)---最近市中価格が大手建値よ
り下る傾向がみられる。

(イ) 八幡, 富士, 鋼管建値-----大手筋, 紐付き

(ロ) 神戸, 住友, 中山, 川崎の価格----上記の1万円高

(ハ) ローカルメーカー----(30社)----卸はここから仕入れる

(ニ) 伸鉄業者

以 上